

Chapter 4

英文法の勉強法



ネイティブは文法を
使わないでしょ？



ネイティブも文法を
使いまくってる！

文法ってルールを
覚えるのがヤダ



丸暗記は
いらないんだ！

語法って
メンドクさい……



2分で20個の語法を
マスターできる！

英語を読むには英文法が絶対必要

英語法は英語マスターへの近道

英文法は本当に役立ちます。専門家が試行錯誤を重ねて見つけ出した「英語を読むための法則」を一瞬で授けてもらえるからです。

たとえばラグビーを始めるとしましょう。何もルールを知らないままひたすら10試合見ていけば「あ、ボールを前に投げちゃいけないのかな」って気づくかもしれませんが。でも最初に「ラグビーでは前方にボールを投げちゃいけません。足で蹴るのはOKです」という「ルール」を教えてもらっていたら、ムダに時間を使うことはなくなります。

英語も同じです。やみくもに英文を大量に眺めていけば、それはそれでほんやり「あ、こうかもしれないな」と英語のルールに気づくかもしれませんが。でもそれは時間がかかりすぎます。

これは1日中英語を浴びながら、何年もかけて子どもが英語をマスターするやり方です。高校生にそんな時間はありません。その代わりに「ルールを理解できる」力があります。英文法をやることで効率的に英語をマスターできるんです。

ネイティブは英文法を使いまくっている！

よく「ネイティブや帰国子女はいちいち文法を考えながら話していない」って言われますよね。「だから英文法はいらない」と言う人もいますが、とんでもない暴論です。決して「ネイティブは文法のことを考えていない」のではなく、「考えなくてもいいくらい無意識化している」のです。

その証拠に、ネイティブは文法のおかしい文を「おかしい」と指摘できます。文法用語も理由も知らないかもしれませんが、文法の正誤判定はできるわけです。これは英文法が彼らの脳と体に染みついていてる証拠です。

理屈が「無意識化」しているだけです。決して理屈が「存在してない」わけじゃないんです！

単語をつなげて読めるほど入試は甘くない

「英文法がいらぬ」と思われる原因の1つに、普段やっている英文の内容が「子どもじみている」可能性があります。特に高校1・2年生や、たとえ受験生でも、共通テストの英文ばかりやっているような人に、このような考えを持つケースが多いうように思います。

共通テストのような「ヌルい」英文ばかりやっているのと、知っている単語をなんとなくつなげれば、大体の意味がわかってしまうんです。選択肢の英文も易しいので、雰囲気だけで解けてしまうものも多く、最後は「単語がわかれば英語は読める」って錯覚してしまうわけです。

この誤解にどっぷりつかって、高3の夏を終えようものなら悲惨です。秋以降に難しい英文を目にして、どうにも読めなくなりそうです。単語をつなげるだけで対処できる甘いものではないからです。そこで「スランプだ」なんて言っても何も解決し

ません。文法をきっちりやらないと、必ず伸び悩むんです。

志望校の入試に文法問題が出なくても、英文法は絶対必要

「志望校の過去問を見たら、文法問題が出てないから、あまりやらなくていいですか？」これは受験生からたまに出る質問です。確かに京大や早慶など有名大学の中には読解問題しか出さないとこもります。

僕の答えは「言語道断」です。

まず、英文を読めるようになるには英文法が絶対に必要です。これだけでも十分な理由になりますが、もう1つ、多くの受験生が見落としているポイントがあります。

英文法を知らないと、長文問題で「設問の微妙なニュアンス」や「選択肢の違い」が理解できなくなるんです。

具体的に説明してみましよう。たとえば、早稲田大学国際教養学部は「長文・英作文・リスニング」で、文法問題が大問として出ることはありません。以下は長文

に対する設問です。

What was the concept of the DALY developed to measure?

早稲田大学 (国際教養)

↓ 「DALY」はこの英文で出てくる専門用語ですから無視してOKです。文構造を考えて、和訳してみてください。(細かいニュアンスの違いが問題となるので、紙に書いてください)。

ここで「何が発達した」と書いたらまちがいです。

英文法の正確な知識があれば「文頭 What は疑問代名詞」↓「後ろには(何か名詞が欠けている) 不完全な文がくる」↓「measure (測定する) は他動詞で、本当なら目的語が必要」↓「欠けているのは measure の後ろ」という判断ができるわけです。要は、次のようになっているんです。

What was the concept of the DALY developed to measure ?

▼measure の目的語が what に変わって文頭に出た！

ですから本来の形は to measure what で、「何を測定するために」と訳せるわけです。文全体は「DALY という概念は、何を測るために作られたのか？」になります。まちがっても「何が発達した」などと訳してはいけません。

このように設問の意図をしっかりと読み取らないと、正しい該当箇所を探し切れず、長文でも得点できなくなるんです。

以上の理由からも、英文法は絶対に必要なんです。ここで手を抜くと、次の段階の「英文解釈」がマスターできなくなります。気合を入れて取り組んでください。

今日からは…

ネイティブ同様、英文法をマスターしよう！
英文法をやれば英語を効率的にマスターできる！！

英文法に「丸暗記」はいらない

☞「最初にaがきて、2回目はthe」という説明の誤り

英文法が嫌われる理由の1つは「丸暗記と例外だらけ」だからですよ。確かに暗記すべきことはありますが、世間で言うほどの丸暗記は必要ありません。英文法は「理論」です。頭を使えば暗記すべきことは激減しますし、何よりも「面白い」と思えるはずですよ。

「丸暗記のない英文法」とはどんなものか、少し説明します。たとえば、theの使い方。中学のときに「最初にaがきて、2回目はthe」と習

いますが、中1の段階で、命令文Open the door. が出てきます。これ、いきなりtheが出てきますよね。もうこの時点で混乱してしまうわけです。

正しいtheの考え方は「共通認識」です。

あなたと私（その場にいる全員）で、共通に認識できることにtheを使うんです。

Open the door. (ドアを開きなさい)

この状況では、どのドアを指すかみんなわかるわけです（たとえば部屋にドアが1つしかないとき）。

また、「太陽 (the sun)」にtheがつくのは、みんなで一齐に太陽を指差せるからです。月 (the moon) や地球 (the earth) にtheがつくのも同じ理由です。

このように、英文法は本質を突けば、メンドクさい用法をたくさん覚える必要はないんです。

「be to構文」は5つも意味を覚える必要はない！

もう1つ例を示しましょう。従来be to構文は、「5つの意味を覚えよう」と言われ、丸暗記させられるものでした。

be toの意味

- ① 予定 「〜する予定」
- ② 意図 「〜するつもり」
- ③ 義務 「〜しなくてはいけない」
- ④ 可能 「〜できる」
- ⑤ 運命 「〜する運命だ」

be to構文の正しい考え方は「これから〜することになっている」です。^①

今まで暗記させられた「予定・意図・義務・可能・運命」はすべて「これから〜すること」で置き換えられます。

^① そもそもbe to不定詞は「未来志向(これから〜する)」なんです。たとえば、wantがtoを取るのbe want to「(これから)〜することを望むのよ」に、wantが「これから」の行為を「望む」からです。be toの直訳は「これから〜する状態だ」というだけなんです。

They are to be married. (あの2人はこれから結婚することになっている)

この文は従来「予定を表す」なんて説明されますが、「結婚することになっている」と考えれば十分なんです。「予定」と分類する必要などないんです。もちろん「2人は結婚する予定」ではありませんが、「結婚する意図」があり、もはや「結婚するのが義務」であり、「結婚が可能」であり、さらには「結婚する運命」なんです。このように5つの意味が混沌と絡み合っているのがbe toの本質なんです。

このように、英文法は理屈で考える勉強をしてください。丸暗記すると「英語の本質」が見失われてしまいます。

今日は…
からは…

丸暗記英語から解放されると本質が見えてくる！
英文法は理屈で考えよう！

03

英文法のオススメ本とその使い方

「文法教科書本」を手元に置いて通読する

ここでは、英文法を勉強するときのオススメ本を紹介していきます。

まず「英文法全体を知る教科書的な本」が1冊必要です。分厚くて通読するのが大変ですが、大学受験ではこのぐらいは基本です。必ず何度も読み返してマスターしましょう。

ぜひ手にしてほしいのが「真・英文法大全」です。

① こういった本を「文法教科書本」と呼ぶことがあります。

参考書は1回解くだけではダメ！

参考書・問題集というのは1回では絶対に身につけません。最低3回、できれば5回やって初めて身につくものなんです。これが現実です。

そこを誤解している人が多いので、「2回もやったのに、全然できない(涙)」、さらには「自分には向かないかも」なんて思っちゃうんです。

1単元を一気に最後まで読んでください。細かいところは覚えなくてOKです。マーカーを引く時間があれば、1行でも先を読みましょう。

参考書というのは1回目が一番大変です。2回目からじっくり読み進めていけばOKです。1度ざっと読んでしまえば、2回目はスムーズに読み進められるはずです。まずは1回、気楽に読んでみましょう！

Books



【真・英文法大全】(関 正生 / KADOKAWA)

最新の大学受験の内容から、将来のTOEICテスト・英会話・ビジネス英語までを意識した、高校英語の関連英文法の決定版です。読み進めるためのあらゆる工夫を詰め込みましたので、900ページありますが、暗記主義の300ページの文法書を読むよりスラスラ進むはず。

「文法教科書」と併用する「問題集」

次に問題集です。「**大学入試問題集 関正生の英文法ポラリス**」を、「文法教科書」を読みながら解いていくてください。「同時に」やっつけていくのがコツです。「文法教科書」を全部読んでから問題集に取り組みよりも、「**文法教科書**」の1つの単元を読んだら、**問題集**でその単元をこなしてください。さらに、学校で配布された問題集があれば、それも並行してやると効果が上がります。

まとめると、1つの単元をやるときは、「**真・英文法大全**」↓「**大学入試問題集 関正生の英文法ポラリス**」↓

「**問題集**（2冊目）」というサイクルで取り組みます。

さらに、このサイクル1周では足りません。5周はしないと完全にマスターできないと思ってください。それがマスターできたら文法はクリアです。

ただし理想は、9月ごろに最後の「仕上げ本」として、さらにレベルの高い問題集に取り組むことです（文法を終えてから少し間を空けるのがポイント）。「**大学入試問題集 関正生の英文法ファイナル演習ポラリス**」のような単元別になっていない（ランダム形式の）問題集を使ってください。

問題集の効果的なやり方

参考書同様、1単元を一気にやってください。まず1回目は実力チェックのつもりで。正解した問題も解説を読んでください。すでに知っていて、自信があるものにはそのまま「無印」で。この問題は永久にやる必要はありません。不正解だったものには大きく○でチェックしておきましょう。また、正解はしたものの、なんとなく解いたり、時間が経てば忘れそうだったりするものには△をつけます。

差がつくのはここからです。2回目から「今度こそ正解してやる」なんて解こうとしないでください。それこそ同じミスを繰り返して落ち込むだけです。あげく自分を責めて、英語をやりたいなくなってしまうんです。

Books



「**大学入試問題集 関正生の英文法ポラリス**」（関正生/KADOKAWA）
3レベルあるので、各自の志望校に合わせて1冊選んでください。レベル1は「日東駒専レベル」、レベル2は「MARCH・国立レベル」、レベル3は「早慶上智以上のレベル」です。ちなみに問題の重複は一切ない（同じ意図の問題は当然あります）ので、レベルの異なる2冊をやっても無駄はありません。



「**大学入試問題集 関正生の英文法ファイナル演習ポラリス**」（関正生/KADOKAWA）
入試で出題された形式（大問のまま）で、収録しています。4択・整序・正誤がそれぞれ100問ずつあります。こちらも「英文法ポラリス」同様、各自の志望校に合わせて1冊選んでください。「自分の志望校レベルの問題だけを300問」やるので超効率的に対策できます。

02 問題集を2冊といっても同じ単元をやるので問題がカブリます。それほど時間はかからないのに効果はずくありますよ。

03 「5周も!」と言われるのですが、大変なのは最初の1~2周だけです。ぜひトライしてください。

04 1回目は「無印」はほとんどないのが普通です。ガツカリしてるヒマはありません。次の問題に取りかかって、とにかく1回目を終わらせましょう。

05 1回読んでだけで、2回目からバシバシ解いていけるほど人間の頭脳はうまくできていません。

2回目からは、「問題を解く」のではなく、「解説を読む」んです！参考書のよ
うに解説を熟読しましょう。これを2回繰り返します（ここまですべて合計3回やった
ことになります）。

次に、10日間この問題集を放っておきます。10日後にリベンジです。○と△のつ
いた問題にリトライしましょう。正解したものは、○に1本斜め線を入れます（で
きなかったものはそのまま）。解説もきちんと読みましょう。すぐに思い出すはず
です。3回も読んでいますからね。

そしてさらに10日後、もう1回、○と△の問題を解きます。前回同様、今回も解
ければ斜め線が入って（合計2本）、×印になるはず。×がついたら、その問題は
終了です。前回できなかった問題が今回はできたり、逆に前回できたのに今回でき
なかつたりすると、斜め線は1本のままですね。×になるまで何度もやります。

これを繰り返し、**無印以外のすべての問題が×になるまで解き続けます。**かなり
大変な作業ですが、ここまでやって初めてマスターできるんです。

僕の生徒で確実に結果を出す生徒に「文法の問題集、何回やった？」と聞くと、
答えは「6回」とか「覚えてないけど10回は余裕で」という答えばかりです。彼ら

彼女らは2〜3回やってもできないのはわかっているので、落ち込んでいるヒマが
あれば、何度もリトライしているのです。それに、×の数がどんどん増えていくの
はけっこう楽しいですよ。

「何回もやると答えを覚えちゃうんだけど……」

よく「何回もやると答えを覚えちゃう」という意見を聞きます。断言しますが、
「答えを覚える」のは勉強ではありません！

勉強とは、答えを覚えることではなく「解き方を覚える」ことです。ですから、
「答えを覚えたからもうやらなくてOK」なんてことは絶対にありません。「解き方
を覚える」まで問題集をやりこめば、必ずできるようになりますよ。

今日
からは…

文法教科書本と問題集を「並行して」「何度も」やろう！

04 「語法」が一気に覚えられる学び方

🗨️ 語法は「型」で整理すれば一気に覚えられる

「動詞の使い方」を「語法」と言います。従来、語法は出てくるたびに「はい、覚えて」という暗記の強要でした。確かに語法は暗記要素が強いのですが、だからといって丸暗記するのはあまりに非効率です。語法は「型」で整理すると効率よく勉強できます。

といっても自分ひとりで整理するのは不可能ですので、实例を示してみましょう。たとえば、「be型」という語法があります。be型の基本形は3つです。

① 「語法」は英文法と一緒にされることも多いのですが、最近では「英文法」と「語法」を分けて説明することも増えてきました。語法の例としては、allow、allow to不定詞の形を取るなど。

tell型の基本形

- ① tell of物 ② tell that sv ③ tell to原形

このtell型を取る動詞が7個あります。

tell型

- | | |
|-------------------|------------------|
| ○ tell「知らせる」 | ○ remind「思い出す」 |
| ○ convince「納得させる」 | ○ persuade「説得する」 |
| ○ warn「警告する」 | ○ notify「知らせる」 |
| ○ inform「知らせる」 | |

これで「基本形3つ×tell型7つ＝合計21個」の語法を一気にマスターしてください。^② 132ページの表の色のついた部分だけを覚えればOKです。

こういった「形で整理する語法」は、英文法のところで紹介した「**大学入試問題**

② 厳密に言うとうと、×to tell to...という形だけ存在しません。そんなことはめったに問われないので、21個のうちで覚えるほうがマシですよ。

集 関正生の英文法ポラリスのレベル2や3にすべて載っていますので、それをやりこめば語法は大丈夫です。

暗記モノにもコツがある

語法の最後に、受験生が語法を勉強するときによってしまう「非効率な勉強」をお話しします。ちょっとクイズで確認してみましょう。

問：次のどちらが「よい説明」でしょうか？

- ① 「discussは後にaboutを取らな^③い。たとえばdiscuss about the planはダメ」
② 「discuss名詞」が正しい形。たとえばdiscuss the plan」

従来は①の説明が多いと思います。「discussは後にaboutを取らない」なんて強調されると、かえってdiscussとaboutがセットで頭に焼きついてしまうんです。それで本番で「あれ、discussってaboutがつくんだけ、つかないんだっけ？」と混乱してしまうわけです。

③ 英語の先生が「discuss about the planはダメ」と連呼すればするほど、生徒の頭には焼きついてしまう……。

今日は…
からは…

語法は「型」で整理すれば一気に時間短縮できる！
暗記モノは「正しい形」で覚えよう！！

ですから、②の説明が理想です。discuss the plan という「正しい形」頭に入る。その正しい形を10回つぶやく。頭の中にaboutなんてジャマ者を入れてはいけません。「ダメな形」で覚えると、本番で混乱しちゃいますし、「いくらやっても身につかない」という状態に陥ります。ぜひみなさんは効率的な勉強法を習慣にしてくださいね。

tell 型の動詞

型 動詞	V ⊡ of ~	V ⊡ that ~	V ⊡ to ~
tell	tell ⊡ of ~	tell ⊡ that ~	tell ⊡ to ~
remind	remind ⊡ of ~	remind ⊡ that ~	remind ⊡ to ~
convince	convince ⊡ of ~	convince ⊡ that ~	convince ⊡ to ~
persuade	persuade ⊡ of ~	persuade ⊡ that ~	persuade ⊡ to ~
warn	warn ⊡ of ~	warn ⊡ that ~	warn ⊡ to ~
notify	notify ⊡ of ~	notify ⊡ that ~	notify ⊡ to ~
inform	inform ⊡ of ~	inform ⊡ that ~	inform ⊡ to ~